

東海大札幌高

高校

個人的な気持ちも込めて「見たい」チーム。新3年生が入学した時から「世代最強」と呼ばれるほど、少年時代から知られた選手が多い。常に「強い」チームで育った選手たちが、4季連続札幌支部敗退の屈辱を晴らすべく、並々ならぬ想いを胸にラストイヤーを迎えるだろう。140キロ超のストレートで押す投打の中心・小林珠維、強打の主将・白川航也らタレントがそろい、他校からも警戒される中、春季大会からその戦いが注目される。

北海道地区 観戦推奨 チーム紹介

北海道ガス

社会人

創部2年目。実質大会デビューとなった昨年9月の日本選手権予選では随所で野球通を「さすが小島啓民監督」と唸らせた。選手層の薄さを逆手に高卒ルーキーが躍動し、怖いもの知らずの戦いは、北海道の野球ファンに社会人野球の面白さと価値を改めて教えてくれた。大卒2年目でプロ解禁となる主砲の寺田和史、左のエース・清水洋二郎らの成長、勝つために加わるオール大卒の「2期生」がどんな野球を見せてくれるか興味は尽きない。

札幌大谷高

高校

発売時には再び「大谷旋風」となっているか。「日本一」のチームを北海道で見られるのは13年ぶり。当時の駒大苫小牧高・田中将大（現ヤンキース）と比較するのは酷だが、大型右腕・西原健太、技巧派サブマリン・太田流星の投手陣と北本壮一郎、飯田柊哉、西原、石鳥亮と続く切れ目のない打線。チームのまとまりはそんな色ない。昨秋からの成長に、系列の札幌大谷中から進学する1年生、日本一に憧れた外部進学の1年生にも注目したい。

ここからの
伸びに期待！

5月が楽しみみな好素材たち

北海道は大型連休が野球観戦の開幕。寒さの中、「開幕」までの1カ月間が重要になってくる。

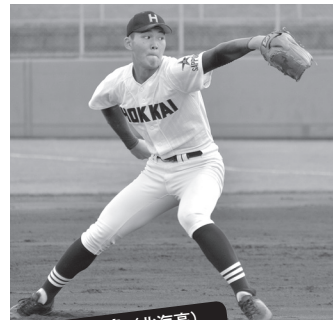
岩田永遠（北海道）は185センチ84キロと惚れ惚れとする大型右腕。秋の段階ではダイナミックなフォームと球速、タイミングが打者と合致し、札幌日大高に打ち込まれた。「間」やキレの大切さを痛感した中での成長が楽しみ。潜在能力では北海道屈指だ。

センバツ出場の札幌第一高からは野島丈の成長が楽しみ。178センチ85キロのがっちりした体から力のあるストレートとスライダで勝負する。手代木陸（苫小牧中央高）は体格もあり、ひたすらストレートを磨く方針にも感服。小柄でも力で押す関口翔夢（クラーク記念国際高）、キレのあるストレートが出色の笹森公輔（白樺学園高）、伊東佳希（旭川北高）ら楽しみな右腕が多い。

左の石澤大和（網走南ヶ丘高）とともに一冬越えての成長に期待したい。

野手では村田凜（札幌第一高）、石鳥亮（札幌大谷高）の長打力、辻本倫太郎（北海道）、堀海人（釧路湖陵高）のスピードが楽しみ。

大学生は実戦力の高い投手から。本前郁也（北翔大）は完成度が高く、その上でストレートも進化を続けている。167センチ右腕の宮澤怜士（東海大北海道）は谷元圭介（中旦）タイプ。ストレートを軸に組み立てる。高橋侑也（函館大）も実戦型。ロースコアの展開が続く中で粘りの投球で勝利に導く。話題先行から実力が評価されはじめた野澤悠真（北海道教育大旭川校）、打線の援護に大きな期待ができない中で投げ切る「心技体」が見られている。



岩田 永遠（北海道）